

事案名	八尾市の事案（大阪府27-2）
分類	発見・被災・掃海等処理
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海中投棄規制条約発効後の自衛隊による化学兵器の処理状況について」(防・防 6.3.17)[1]</li> <li>・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」[2]</li> <li>・『朝日新聞』昭和53年9月20日[3]</li> <li>・『読売新聞』昭和53年9月20日[4]</li> <li>・『産経新聞』昭和53年9月20日[5]</li> </ul>
資料内容概要	<p>大阪府八尾市内の教育施設において、瓶入りのイペリット、ヒ素、青酸が発見され、陸上自衛隊において中和し、海洋投棄された。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和53年9月19日に、八尾市内の教育施設において発見されたイペリット200cc、ヒ素50cc、青酸30ccを、大阪府警察本部長の要請を受けて出動した自衛隊が晒粉で中和してコンクリートに詰め、海洋投棄した[1][2]。</li> <li>・発見されたのは、イペリット約200cc（ガラス瓶に入っており、蝋で密封されていたが剥がれ落ちそうな危険な状態）・TNT火薬180g（瓶入り）・ヒ素95g（瓶入り）・青酸カリ80g（瓶入り）・焼夷弾の原料テルミット550g（缶4個）であり、危険性の高いイペリット・ヒ素・青酸カリは晒粉を詰めたビニールに入れて運び、コンクリート詰めて海中投棄することになった。TNT火薬とテルミットは府警で処理を担当した[3][4][5]。</li> </ul>